



izumi NEWS

学校法人 和泉短期大学

Vol.20
(2014年3月)



2013年度聖句

「喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。」
(ローマの信徒への手紙 第12章15節)

facebookページ開設中！『いいね！』を押してください。

左一第8代新学長・佐藤守男教授(2014年4月1日就任予定)、右一第7代伊藤忠彦学長

izumi NEWS Vol.20

和泉短期大学 広報渉外ユニット
発行責任者 理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1
TEL.042-754-1133 (代表)
URL.<http://www.izumi-c.ac.jp>

一 目 次 — C O N T E N T S

特集	2014年度和泉短期大学・同専攻科の事業計画	2
	学長退任にあたってのご挨拶 学長—伊藤忠彦	3
izumi TOPIC	●保育士をめぐる最近の一部報道に思うこと	4
	●第1回保証人会を開催しました	4
	●入学前教育を受講して	4

2014年度 和泉短期大学、同専攻科の事業計画

理事長 深町 正信



学校法人和泉短期大学、同専攻科は例年、約90%以上の学生たちが地元の神奈川県下と東京都の近辺から入学してくる「地元密着型」の短期大学であり、また、その地元の幼稚園、保育所の保育士、高齢者施設および社会福祉施設の介護福祉士の人材養成に大いに貢献してきたことを自負している。今年度も和泉短期大学の活動計画の中心にこのことをしっかりと据えて、今年度の事業計画を立案し、実施してゆきたいと願っている。

和泉短期大学の教育は建学の精神であるキリスト教信仰による、勤勉な社会人、忠実な職業人、実力のある実務者の養成により、より質の高い幼児教育と社会福祉の仕事に携わる人間の養成を目指してきたが、今年度も、このことの実現に大いに努力をしてゆきたいと願っている。このためにも、今年度も例年のように「入学前教育」に力を入れ、前年度に受講した学生の感想、その評価を生かして、今年度の新入生の入学準備に取り組んでいるところである。したがって、入学する学生たちはよりよい教育と技術の向上を担保されており、入学後、それぞれの学生が専門教育の知識と技術を真摯に体得し、就職後には、学生たちが少しでも現場での働きにおいて、即戦力と倫理性のある職業人であることを念願して、日々の教科の充実と実習に努めていきたいと願っている。

今年度は12年間、3期「1期が4年間」、和泉短期大学の学長であった伊藤忠彦氏が任期満了を迎えて退任し、新たに新学長として佐藤守男氏が新学長に選任されて、学長に就任されることになった。第7代の学長、伊藤忠彦学長のこれまでの良きご指導とお働きに対して、ここに、心からの感謝を申し上げたい。今年度からは、先生に新たに特任教授、チャプレンとしてご就任いただくことはまさに幸いなことである。

将来、子どもたちの保育所、幼稚園、様々な児童福祉施設などで働きたいという新入生達の願いを実現させるために、和泉短期大学は今年度も、教員と職員とが車の両輪となり、よりよい教育共同体、研究共同体を形成しつつ、若い人々の夢を実現するための「実力養成型」の大学として、相模原地区の他の大学と協力し、この地域の知の拠点としての働きをなすために努めたいと願っている。

4年制大学の卒業生よりも、短期大学の卒業生は25歳のキャリア像を比較して、検討してみると、その差が歴然としている。職業人としては、20歳の短期大学卒業生が3年目以降、急速な成長の伸びを示していることが、キャリア・アップのデータにより確かに示されている。

今年度は前年度において、懸案の大きな事業を実施することが出来たので、今年度は緊急性のある四つの事業のみに取り組むこととした。

その第一は、現在の和泉短期大学のキャンパスを出来るだけコンパクトに整理し、新しいキャンパスにするため、その周辺の土地を取得するための検討を始めることとした。

第二は、校舎のトイレの改修工事を早急に実施することとした。これまでの旧式のトイレから新しい、快適なトイレに改修することは、現在よりも更に居心地の良い学生生活をするために、最も必要なことであり、出来るだけ早く着手する予定である。

第三に、現在の1号館校舎、2号館（研究棟）の屋上の防水工事の実施である。幸いにも、校舎の耐震診断の結果は当分の間、大丈夫であり、心配がないということであるが、より安全重視のためにも早急に防水工事に着手する予定である。

第四に、2014年4月1日から消費税率が上がる問題である。消費税率は5%から8%への増税が実施される。したがって、本年度の予算案ではこのことを織り込んで予算案を作成する必要があると考えて、事業計画の中に取り組むこととした。

結びに、今年度も例年のように、理事長としては理事会、評議員会に諮りつつ、ガバナンス（管理、統括）と、コンプライアンス（法の遵守）とを重視して、本学に課せられた大切な使命を力強く果たして参りたいと願っている。

何を実施するにしても、その際には必ず「人、もの、経済」を考えなければならないことは言うまでもないことがある。特に、私立大学は短期大学を含めて定員割れは、教育が悪いからではなく、授業料で国公立大学に到底太刀打ちできないのが現状である。更に、大学数も、学部学生数も、私立大学が80%を占めているのにもかかわらず、2014年度の国家予算案において、国立大学の運営交付金は1兆1300億円である。しかし学生数が国立の3倍もある私立大学への経常費補助は僅か3200億円に過ぎないのが現状であることは誰もが知るところである。しかし私立大学の一つである和泉短期大学は、今年度も教育の内容を少しでも高めるために真剣に努力し、常に改革の精神を忘れずに、前進してゆきたい。今年も益々少子化の進む中で、学生に選ばれる大学を目指し、努力してゆきたい。何事をするにも常にコスト意識をもって、熱心に対応してゆきたい。最後に、教育充実資金募金は当分、関係者の皆様のご理解とご協力を得て、今少し継続して実施してゆくこととした。

学長退任にあたってのご挨拶

学長 伊藤 忠彦（第7代学長在任期間：2002年4月1日～2014年3月31日）



3月末をもって、学長の職を退くことになりました。この紙面をおかりして、これまでのこの務めに対し、また和泉短期大学の維持、発展のためにお力添えくださった皆様に、退任にあたり、心より感謝し、お礼を申し上げます。

私は、牧師養成校である東京神学大学で学ぶ中で、キリスト教学校の中高の宗教科の教師の資格を得るために、教職課程の学びと教育実習を終え、卒業時には、申請すれば取得できましたが、牧師に専心すると決心し、申請しませんでした。

しかし、省みて、私は牧師として40年、また教会との兼務でしたが、和泉短期大学の教師を、非常勤の5年を加えて38年、教育に従事させていただくことになりました。この38年のキリスト教学校の教員としての働きをとおして気づかされたことは、日本伝道にとってだけでなく、日本社会にとって、キリスト教学校が、どんなに大きな働き、意味をもっているかということでした。人は見えるものだけでなく、見えないものにも目を注ぐことの大切さ、また、利己的で自制力に欠ける私たちですが、正義を大切にし、思いやりをもって隣人に接すること、等、公教育においても教えなければならない精神を、キリスト教学校は建学の精神として、教え、育むことに努めていることに気づき、この務めを担うことを牧師であることと同様に、使命と感じるようになりました。

今日、私たちが直面している状況は、競争を原理とした社会です。この状況は、自由で流動的な社会がもたらした当然の結果です。固定化された階級社会では無かつたことです。しかし、今や個人の能力と努力が報いられる可能性の拡大した自由で流動的な社会なのです。しかし、この社会は厳しい競争の社会であるだけでなく、学友や同僚も助け合う仲間ではなく、隣人はライバルとなり、敵ともなる冷たい、合理主義的社会でもあるのです。流行語大賞に選ばれた「倍返し」は、この様な人間関係に生きる多くの人に共感を呼んだのだと想像いたします。

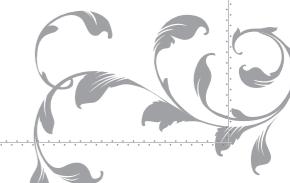
主イエスのたとえ話に、汚れた靈が出ていったので、家主は掃除をしたが、出ていった汚れた靈が、その家に帰ってみると、誰もいないので、今度は七つの汚れた靈を引き連れて、その家に住みついたと言う話です。（マタイの福音書12章43節以下）

現代の自由社会のもたらした負の現実が、この、たとえ話に言い表されていると思います。また、この話には、体制、状況が代わっても、人は常に新しい困難、問題に直面することになるのだと言われているのだとも言えます。

私たちが担っている教育は、この様に、どんな状況下でも直面しなければならない困難・問題と、めげることなく向き合い、克服し、乗り越えて行ける人を、本学の建学の精神を表す「愛と奉仕」という標語の下に育てて行くことです。

この標語の内容に関わる聖書の御言

- 1)「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（マタイ7:12／キリスト教の黄金律と言われる）
- 2)「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」（2コリント4:18）
- 3)「強い者は、弱くない者の弱さを担うべきである」（ロマ15:1）



保育士をめぐる最近の一部報道に思うこと

教務部長・教授 鈴木 敏彦



昨今、保育士の待遇条件の悪さ等について、マスコミで報じられています。こうした報道に接し、保育士を目指す学生の皆さん、保証人の方々、卒業生の皆さん等にとっては、不安な気持ちを抱くことが多いのではないでしょうか。保育士の待遇条件の向上については、私自身も保育所を運営する社会福祉法人の経営に関わっており、大いにその進展を期待しています。しかしその一方で、保育士の就労に関する状況を冷静に見つめることも大切です。

「平成24年賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)によると、保育士の月額給与は平均21万4,200円(短時間労働者を除く)とされ、全業種の月額給与の平均29万7,700円と比較して低いとされています。しかし詳しく統計を読み解くと、「全業種」は平均年齢41.7歳、平均勤続年数11.8年の数値を指していますが、保育士は平均年齢30.0歳、平均勤続年数4.7年となっています。両者を単純に比較することには、課題があると言わざるを得ません。

また、「保育士資格を有しながら保育士としての就職を希望しない求職者に対する意識調査」(厚生労働省、平成25年)では、保育士を希望しない理由のうち、最も多いものは「賃金が希望と合わない(47.5%)」であり、以下、「他職種への興味(43.1%)」、「責任の重さ・事故への不安(40.0%)」、「自身の健康・体力への不安(39.1%)」等が続いています。この調査は、潜在保育士の動向を知るうえで、また保育現場の改善点を示すものとして貴重な統計といえます。

しかし反面で、こうした「保育現場での厳しさ・大変さ」がありながらも、現場の第一線で働き続ける保育士の皆さんの待遇条件や職業観・保育観等を併せて見ていかなければ、保育士がやりがいを持って働き続けられる職場のあり方を考えることはできません。神奈川県社会福祉協議会の行った調査(「平成24年度社会福祉施設等の人材確保に関する需要調査報告書」)によると、保育士の離職理由としては「福祉分野の他事業所の同職種への転職」(23.9%)が最も多く、「家庭の事情(介護、看病、転勤等)」(20.8%)、「福祉分野以外への転職」(9.0%)等が挙げられており、「給料等待遇面への不満」は2.2%にとどまっています(「その他」の回答を除く)。二つの統計を見比べると、それぞれの調査の回答層の相違があるとはいえ、結果の違いに驚かされます。

さて、「社会福祉施設の人材確保・育成に関する調査」(全国社会福祉協議会、平成20年)では「離職と組織的要因の全体像」として、離職を防ぐための組織としての取組みを促しています。また、国も昨年10月に「保育を支える保育士の確保に向けた総合的取組」を発表し、保育士の待遇条件改善等に向けた取組みを開始いたしました。私たちは、こうした施策動向を注視していく必要があります。

保育士や保育制度をめぐる最近の報道の一部には、断片的な情報のみを用いて不安を感じさせるものも散見されます。私たちは、「子どもの最善の利益」を保障する保育士の役割を踏まえ、この国の保育のあるべき姿に思いをはせながら、保育士の待遇条件の改善等に向けて地に足の着いた議論をしていきたいものです。

2013年度 入学前教育を受講して (2014年度入学者)

角田 愛(神奈川県立大和西高等学校)



入学前教育を受けて、一回目に「在学生・卒業生メッセージ」で、幼稚園での出来事や、大変なこと、実習で学んだことや、学校生活の話などを聞くことが出来てとてもよかったです。それまでは学校生活のことや、実習、保育者になってからのことなど、不安なことだらけでした。ですが、この時間の中で、入学してからの生活が段々明確になりました。

二回目の入学前教育では、「文章表現技術を学ぶ」と言う授業を受けました。これから和泉に入って書くレポートや、ノート作成のポイントなどを学びました。普段自分が書いている間違った書き方や、正しい書き方など、改めて見直すことができました。そして、レポートなどの提出するものは、「見られる意識」を持って書くことが大切だということを学びました。これから提出するレポートや、実習や、保育者になってからも書く日誌など、「見られる意識」を持って書いていきたいと思います。

入学前教育で新たなことを学び、春からの短大生活につなげていきたいです。

西田 諒子(神奈川県立相模原高等学校)



私は、入学前教育を受講したこと、将来に向けて自信を持つことができました。共に入学する人の中に友人は1人程しかいなかったので、これから的生活に自信がありませんでした。ですが、少しずつ周囲の人と仲良くなることができました。

第1回目の入学前教育では先輩方からの貴重なお話を聞かせて頂きました。大学生活のことや実習、就職についてのお話を聞いて、やはり様々な場面で周囲の人との協力がとても大切なだと感じました。

また、私は文章を書くことに自信がありませんでした。ですが文章作成についてのお話やワークブックの取り組みを通して少しずつ自信をつけることが出来ました。今後も文章力と表現力の向上へ向けて、多くの文を読み書きしたいと考えています。

和泉短期大学での生活は2年間と短いですが、その中にある沢山の出会いを1つ1つ大事にしたいと思っています。

第1回 保証人会を開催しました

学生部長・教授 佐藤 守男



2014年1月18日(土)13時~16時 第1回保証人会を開催しました。当初は、いづみ祭時の2013年10月26日(土)に予定していましたが、大型台風接近により中止となり、多くの方にご迷惑をおかけ致しましたことを深くお詫び申し上げます。

I部の全体会では、教務部長 鈴木敏彦より「和泉短期大学の教育内容及び進路についての現状」、実習・ボランティアセンター長 松浦浩樹より「実習についての説明」があり、II部では、各グループアドバイザーとの個別面談を行いました。

参加された保証人の方々からは、「現状がよく把握できました。きめ細やかな対応に感謝します。」「大学生活の様子がよくわかり安心しました。」「これからもすばらしい保育者を沢山育ててください。和泉の卒業生で本当に良かったです。娘もお世話になれてうれしいです。」などの感想をいただきました。

ご参加くださった保証人の皆様、ありがとうございました。

「国際ソロプチミスト相模」から和泉短期大学に助成金の贈呈式がありました

2014年2月20日(木)相模原市民会館3階第1中会議室にて、『国際ソロプチミスト相模』(会長 馬場 由紀子氏)から和泉短期大学の教育活動に対し助成金の贈呈式がありました。

国際ソロプチミスト相模から本学に対しての助成金は、2005年度から始まり本年度で9回目となります。本学の教育活動に有効に活用させていただきます。



「5号館(旧和泉福祉専門学校)土地・建物」売買契約成立のご報告

事務局長 土橋 正文

学校法人和泉短期大学は、高齢化社会に対応したケアワーカーの養成校として1985年4月に我が国最初の和泉老人福祉専門学校を設立してから、2010年3月末日をもって閉校するまでの29年間に専門学校として2,313人の卒業生を輩出しました。2010年4月に短期大学専攻科介護福祉専攻(1年制、定員20名)として引き続き現在の5号館にて出発しましたが、収容定員200名の校舎において20名規模の学校を運営していくには、毎年度多額の経費を要したため、2013年11月から、専攻科の全ての授業を1号館で行うことが厚生労働省から認可されました。

以上の経緯により、今回「5号館の土地・建物の売買」に至りました。

2012年5月から売却先の社会福祉法人相模福祉村と約2年間に亘り交渉を続けてきた結果、2012年12月18日(水)に売買契約を締結し、2013年2月6日(木)に相模原市開発審査会から「建物の改修・用途の変更許可」を受け、2013年3月5日(水)に「5号館土地・建物」の引き渡しを行いました。

社会福祉法人相模福祉村は、5号館の内装を改修し、障がい者就労支援を中心に放課後等児童デイサービス事業を行う予定です。

参加した学生の感想

2年生 濑戸若沙



予想以上の来場者数で驚きましたが、子どもたちにも保護者の方にも楽しんで頂けたので、開催して良かったと思いました。子どもたちのキラキラした笑顔、その子どもを見守る保護者の方々の優しいまなざしが私にとって何よりの宝物となりました。来年度第2回の開催に向けて、良いバトンをつなげられたと思います。また、和泉だけでなく、北里大学の方や、さがまちコンソーシアムの方、市民団体の方とも協力し、一つのことを成し遂げたことが、私たちにとって、大きな力になりました。



北里大学との共同プロジェクト「はっぴいアクアリウムプロジェクト」で「こども体験イベント」を開催

キャリアデザイン委員会委員長・准教授 平田 美智子

2013年11月23日(土)10:30~15:00、ユニコムプラザがみはら(ボーノ相模大野)が、子どもたちの歓声と熱気にはめ込まれました。「こども体験イベント ここに魚が? !遊び場が? ! ~作って、遊んで、見て、知って~」と名づけられたイベントには、来場者645名(大人308名、乳幼児256名、小学生以下81名)、関係者も合わせれば700名を超える人が参加しました。

このイベントの主催は「はっぴいアクアリウムプロジェクト」(北里大と和泉短大の共同プロジェクト)で、文部科学省補助金「平成24年度 産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業」の一環として企画、運営されました。学生たちはイベント実施のため実行委員会を作り、10回以上会議を重ね準備をしました。

この日のイベントの4つの柱は、(1)「おもちゃ作り」(和泉短期大学ボランティアサークル他)、(2)「講演会」(「あそびっこネットワーク」代表理事 中川奈緒美さん、遊び創造集団「たのしーのひ」主宰 安藤耕司さん)、(3)「ミニ水族館」(北里アクアリウム・ラボ)、(4)「冒険遊び場」(県北エリアのプレイパーク5団体)でした。

イベントは参加者たちに大変好評で、「学生のお兄さん、お姉さんと交流できよかったです」「来年も子どもが喜ぶ体験的なイベントだったら是非参加したい」というご意見をいただきました。学生たちは、「大変だったけれども、子どもたちの笑顔が見られて良かった」と、次年度の「こども体験イベント」の開催に意欲を燃やしています。

|2013年度『教育環境充実資金』募金のお礼

多くの皆様に『教育環境充実資金募金』にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

2013年度の募金につきましては、学生の音楽環境を一層充実させるために、夏期休業期間に大教室を改修して、ミュージックラボラトリー（音楽電子教育システム）を開設致しました。後期から「ミュージックラボラトリー特別講座」を開講し、学生から好評です。

2014年度からは、『ミュージックラボラトリーとピアノの個人レッスン』を組み合わせた器楽（ML・ピアノ）を開講します。学生一人ひとりの習熟度に合わせたきめこまかい授業が行われます。

また、音楽電子教育システム（ミュージックラボラトリー）を、文部科学省の補助金対象事業「私立学校教育研究装置等施設整備費」に申請し、「選定」となりました事をご報告いたします。

和泉短期大学では、2014年度も継続して教育の充実に必要な費用、施設拡充のために「教育環境充実資金」への協力をお願いしてまいります。これからもご協力をよろしくお願い申し上げます。

●ご寄付者数 9件（2013年12月1日～2014年2月28日）

●寄付金額 200,000円

対象事業募金合計額 4,668,000円（194件）

●募金対象事業 電子音楽教育システム（2013年9月設置完了）

震災・災害対策

●募金目標額 10,000,000円

●期間 2013年5月～2014年3月

●寄付金 1口5,000円

●募金担当 経理・施設ユニット にお問い合わせください。

ご寄付をいただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

2013年度の右記期間の募金につきまして寄付者ご芳名をまとめさせていただきました。なお、法人事務局が受理いたしました日付で処理しております。多少のずれが生じている方もあるかと存じますが何卒ご了承をお願いいたします。

法人事務局

寄付者一覧（敬称略）

（2013年12月1日～2014年2月28日）

猪狩 満友

石井 俊子

岡田 康子

鴨野 幸恵

北原 由佳

国際ソロプロチミスト相模

スマーリングパートナーズ

チャリティゴルフ大会実行委員会

寺山 真司

長谷川 由起子



▲電子音楽教育システム（EML）

第12回 和泉短期大学 2014年度 介護技術講習会のご案内			
①日程	1日目 2日目 3日目 4日目	5月24日(土) 5月25日(日) 5月31日(土) 6月1日(日)	9時～19時 9時～18時 9時～18時 9時～17時
②受講料	70,000円（テキスト代を含む）		
③定員	24名（先着順）		
④会場	和泉短期大学（相模原市中央区青葉2-2-1） ※駐車場有 JR横浜線「淵野辺駅」よりバス10分 または 小田急線「相模大野駅」よりバス20分		
⑤申込受付期間	2014年4月1日(月)～5月2日(金)		
※この期間内に本学に到着したハガキのみを対象にします。			
⑥申込方法	①往復ハガキでお申し込み下さい。それ以外は受け付けません。 ②期間内に本学に到着したハガキのみを対象にします。 期間前に到着したものも無効とします。		
⑦結果	返信ハガキでお知らせします。		
⑧受講料振込	受講を認められた方は、返信ハガキで指示した期間に 受講料を銀行から振り込んで下さい。		
⑨申込往復ハガキ	往信の表	〒252-5222 相模原市中央区青葉2-2-1	和泉短期大学 介護技術講習会係
の書き方	往信の裏 ①介護技術講習会受講希望 ②自宅の郵便番号、住所、電話番号 ③氏名(ふりがな) ④昼間連絡の取れる電話番号(携帯番号)		
	返信の表	自宅の郵便番号、住所、氏名	
	返信の裏	何も書かないで下さい。	
⑩問合せ先	042-754-1133 和泉短期大学 広報渉外ユニット		

永年勤続非常勤講師退任あいさつ

和泉での日々に感謝をこめて

上田 祥子



和泉短大にてピアノの授業を担当させて頂いてから、思えば長い時間が流れました。世田谷学舎の時代より、通算三十五年余となります。ピアノの授業は個人レッスン形式ですので、各人の努力、苦労、そして進歩がはっきりと伝わります。目的を持った学生の皆様の、驚く様な進歩を、毎年目にしてきたことは本当に幸せでした。

保育の現場すぐ使えるピアノ演奏の技術、更に、生涯を通してピアノを楽しめる基礎、この二つの事をいつも考えておりました。

学生の皆様との未来に向けての日々は、実り多く、楽しい事ばかりが心に残ります。この間、多くの先生方、事務局の方々には常に暖かく支えていただき深く御礼申し上げます。長年、学生の皆様に贈ってきた言葉です。

「ピアノ＆音楽とともに素敵人生を! Good Luck!!」

和泉の皆々様の御多幸を心より願っております。

計報

和泉福祉専門学校元副校長、本法人元評議員、大場敏治氏が、2013年12月4日（水）に召天されました（享年85歳）。2013年12月8日（日）に告別式、2014年1月26日（日）に偲ぶ会が行われました。ご遺族の上に、神様の豊かなお慰めをお祈りいたします。

本学における経歴

- 和泉福祉専門学校副校長、専任教員（1987年7月～1994年3月）
- 本法人評議員（1992年6月～1998年5月）



関係機関における経歴

- 東京山手プランチ主任主事
- 埼玉YMCA総主事（財団常務理事）
- 群馬社会福祉大学・短期大学 教授
- 群馬医療福祉大学 名誉教授

主著

- 「病める人間関係と集団活動」「レクリエーション指導法」「大学生と市民のための福祉講座」「福祉マンパワーの確保と定着」「必携介護福祉用語解説辞典」